

# 学校の魅力を最大限に引き出す教材開発

令和5年度の教育実践を通して

大丸奈緒美

Teaching material development that maximizes the attractiveness of the school:  
Through educational practice in 2023

DAIMARU Naomi  
(Received JULY 31, 2024)

キーワード：学校の魅力、協働、学びの連続性

## はじめに

現代の学校教育を取り巻く様々な問題を抱えながら、「令和の日本型学校教育」の実現をめざしていくためには、次代を担う子どもたちの豊かな学びを実現し、支援する「学び続ける教師」の養成・採用・研修が急務であることは言うまでもない。

令和6年5月13日に出された『令和の日本型学校教育』を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について（審議のまとめ）では、様々な分野にわたって、抜本的な改革案が打ち出され、検討に入ったところである。

山口県教育委員会と国立大学法人山口大学教育学部との交流人事教員である筆者に課された使命は、これまでの自身の教職経験を最大限に生かし、学校という魅力ある教材を通して、教職をめざす学生の「主体的・対話的で深い学び」を実現しつつ、一人でも多くの学生が「学校の魅力」や「教師のやりがい」を体感することができる場を大学での教育活動において展開していくことであると考え、実践を積み重ねているところである。

そこで、大丸（2023）に掲載した教育実践を継承し、学校という教材の魅力をさらに引き出していくために、令和5年度においても、小学校総合選修におけるゼミ活動を核とした教育実践を「教職協働実践Ⅰ」（小学校総合選修1年生科目計4コマ担当）の授業において活用し、さらなる深化を図っていくこととした。地域とともにある小規模校の教育活動を教材とし、これから教職をめざす学生にとって、学校という存在、教師という職が、魅力的、かつ、やりがいのあるものであることを実感できる教材開発に引き続き取り組んでいくこととした。

## 1. 令和4年度「教職協働実践Ⅰ」の成果と課題と令和5年度の構想

### 1-1 令和4年度の成果と課題

令和4年度「教職協働実践Ⅰ」の成果と課題については、大丸（2023）に掲載したとおりであるが、令和5年度の教育実践を構想するにあたり、重要な視点であるため、以下再掲することとする。

#### 【成果】

学生のリフレクションの記述からは、実に多くの学びを得たことが見て取ることができる。

全5コマという限られた授業ではあったが、授業者である筆者がめざしたねらいは概ね達成できたと思う。と同時に、「学校の魅力を最大限に引き出す教材開発」においても、一定の評価が得られるものであったと考える。

本授業実践を通して、「学校の魅力を最大限に引き出すための教材開発」には、以下のような要件が必要であると導き出すことができた。

- ① 教材として取り上げる学校の教育活動自体に魅力があること
- ② 魅力的な教材にどのように出合わせ、体感させるかという学習活動を工夫すること
- ③ 同学年や上学年といった他者との協働の場を意図的に設定すること
- ④ 学びの連続性や思考の連続性が可能な教材であること

#### 【課題】

##### ○ 持続可能な取組にすること

対象校の今年度の児童数は2名（R5.4.11現在）である。学校が存続する限り、教育活動を教材として活用していくことは可能ではある。しかし、学校は、これまでの教育活動を継続して全てを実施することは難しいと思われる。現状の中で、どのような教育活動を展開していくことができるのか、また、その活動を地域、保護者がどのように支えていくのかは、学校の状況に応じて年々変わってくるであろう。学校の教育活動を教材として扱う場合、そのような学校の実情に配慮した教材開発が必要になると考える。今後は、対象校以外の学校との交流も視野に入れつつ、学校にとっても、学生にとってもwin-winになる教材開発を展開していきたい。

##### ○ 学びの連続性を大切にしたい計画を立てること

本授業の実施に当たっては、計画段階から学生の「学びのつながり」を大事にしたものにしてほしいと考えていた。教員養成カリキュラムのスタート3科目である1年前期の教職概論、前期集中の教職キャリア形成Ⅰ（教職体験）、後期の教職キャリア形成Ⅱでの学びを基盤にしなが、新たな視点で「学校教育のあり方」を前向きに考える機会にしていくことができるよう活動を工夫しながら実施した。しかし、学習テーマが似かよってしまったために、学生によっては「同じことの繰り返し」といった感触をもつ者もいたのではないかと考える。そのことにより、意欲の向上につながらないものになったことも考えられる。学習テーマは授業において非常に重要なものであると考えるので、今後の実施に当たっては、再考、熟考しながら、学生にとってよりよい学びにつなげていくことができるような学習テーマを学生とともに考えていきたい。

以上の成果と課題を踏まえ、筆者が教育学部で関わっている教育活動とのつながりに重点をおきながら、令和5年度の教育実践を展開することとした。

## 1-2 令和5年度の構想

令和4年度の実績を踏まえつつ、各活動のさらなる深化を図るために、筆者が所属する附属教育実践総合センター事業である研究視察バスツアー、小学校総合選修におけるゼミ活動、「教職協働実践Ⅰ」をそれぞれつなげながら、学生が主体的に取り組むことができる仕組みを再構築していくこととした。

## 2. 研究視察バスツアーとゼミ活動の連動

### 2-1 研究視察バスツアー「須磨小に行こう！」の計画

令和5年度も引き続き、教育実践総合センター事業である研究視察バスツアー「須磨小学校に行こう！」として周南市立須磨小学校に訪問することとした。令和5年度は明確にゼミ活動と連動させ、10月実施予定のバスツアーに向け、ゼミ生が明確な目的意識をもって活動していくことができるようにゼミ活動の中核にし、計画するところからスタートした。

### 2-2 ゼミ活動の実際

本ゼミは、令和5年度は小学校総合選修4年生4名、3年生3名、計7名を構成員とし活動をした。これまでは、基本的に学年ごとに週1回ゼミ活動を実施していたが、令和5年度は、月1回程度、3、4年生合同でゼミ活動を実施した。

ゼミ活動では、まず、4年生が、小規模校である須磨小ならではの授業案を考え、7月後半、3年生に向

けプレゼンを実施した。

授業を構想するうえで、以下の2つをポイントとして学生に示した。

- ① 須磨小、須金らしい授業
- ② 普段、少人数ではできない授業

プレゼン大会後、4年生4名が2チームに分かれ、それぞれのチームごとに2つのポイントに沿った授業案を再考することとした。

その後、10月11日に実施予定の研究視察バスツアー「須磨小に行こう！」に向け、4年生が中心になって授業準備を行った。

以下、4年生が考えた指導案を示す(図1、2)。

周南市立須磨小学校 第2, 3学年 学級活動学習指導案 令和5年10月11日(水) 指導者		
<p><b>本時案</b></p> <p>(1) 主眼 パイプをつなげてピンポン玉をゴールまで運ぶ活動を通して、協力して成し遂げる楽しさや達成感を感じるようにする。</p> <p>(2) 準備 ●画用紙10枚×2, ピンポン玉6個 ○バケツ(ゴールにするもの), コーン</p> <p>(3) 学習の展開</p>		
学習活動・内容(発問)	予想される子どもの反応	指導上の留意点
<p>1 オリエンテーションを行う A リレー B ルール説明 ◎注意事項の確認 (導入 5分)</p>	<p>ア パイプをつないでピンポン玉をゴールまで運ぶんだね イ ピンポン玉を落としたりしたらその場からまたスタートするんだね</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">めあて 協力してピンポン玉を救おう!</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用具をあらかじめ準備し、体育館に設置する。そうすることで、活動の時間を確保する</li> </ul>
<p>2 グループで練習し、チーム対抗のゲームをする (展開① 20分)</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">問 どうやったらもつとはやくゴールできるかな</p> <p>◎作戦会議 ●他者と協力すること</p>	<p>ア ピンポン玉を何回も落としていたね (課題提起)</p> <p>イ 力を抜いて転がすと落とすにくいよ (課題解決)</p> <p>ウ 話し合ったことを意識してさっきよりも早くゴールしよう (共通認識)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適度なレベルの設定を行う。そうすることでより達成感や充実感を得る活動ができるようにする (例)『困り感の解消』</li> <li>○コースを短くする</li> <li>○少人数で練習する 『レベルアップ』</li> <li>○障害物を設ける</li> <li>○片足立ちでプレイする</li> </ul>
<p>3 全体でゲームをする (展開② 10分)</p>	<p>ア 人数が多くなると難しくなったね イ 長い距離でも運ぶことができた</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作戦タイムの時間をとる。そうすることで、チーム内で協力する機会を確保できるようにする</li> </ul>
<p>4 ふりかえりをする (終末 5分)</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">問 協力してみてどうだったか</p> <p>●協力することの大切さ</p>	<p>ア 落とさないように運ぶことを頑張った イ 話し合いをしたから最初よりもだんだんはやくゴールすることができるようになった</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協力してみてどうだったかについて振り返りをする。そうすることで、協力することによる達成感や楽しさを改めて感じることができるようになる</li> </ul>
<p>(4) 評価の観点と方法</p> <p>積極的に活動に取り組んだり、話し合いで発言したりして、協力することができたか、活動の様子から見とる。</p>		

図1 指導案①

本時案 ー第1次・1時分ー

- (1) 主眼 植物を用いて叩き染めを行うことを通して、地域の自然の豊かさや叩き染めの方法について知り、楽しんで作成することができる。
- (2) 準備 ●A4 バッグ●クリアファイル●紙●スプーン●酢○バケツ○ポット●葉
- (3) 学習の展開

学習活動・内容（発問）	予想される子どもの反応	指導上の留意点
1 叩き染めのやり方を確認する ・手順の確認 ・注意事項の確認 (10分)	・さっきの時間にいちょうの落ちた葉を拾ったね ・他にもたくさん拾ったよ ・どうやったら色がつくのかな	・植物を集めておく ・見本例を示すことで、作品のイメージを持つことができるようにする
めあて：たたきそめで自分だけのカバンをつくろう		
2 叩き染めを用いて作成を行う ・作品の構想を考える ・作成する (30分)	・どこになんの葉っぱを置こうかな ・どのようにしたらしっかり色がつくかな ・しっかりこすったら色がたくさん付くね ・落ち葉の色によって移る色が違うね ・柔らかい葉っぱは色がつきやすいね	・作り方の紙を配布することで、確認しながら作成できるようにする ・大学生がサポートに入る ・葉っぱの色や種類。擦る力などによって色の付き方に違いがあることに気付くことができるようにする
3 叩き染めた作品を発表する  問：お気に入りポイントはどこだろう  ・作成したバックを提示してお気に入りポイントを一言紹介する (5分)	・いちょうの木の葉っぱをメインにして作ったよ ・緑や黄色の葉を並べてカラフルにしたよ ・淡い色が好きなので優しくこすって作ったよ ・学校の周りにはきれいな植物がたくさんあるのだね	・色止めで付け置きする前に作品のお気に入りポイントを一言紹介するようにする ・発表を交流することによっていろいろな植物があることを知り、地域の豊かさに気付くことができるようにする

(4) 評価の観点と方法

学校の植物を用いて叩き染めを行うことを通して、地域の自然の豊かさや叩き染めの方法について知り、楽しんで作成することができたかどうか作成の様子や交流の様子からみとる

図2 指導案②

2-3 研究視察バスツアーの実際

バスツアーには、ゼミ生7名の他、教育学選修の4年生3名も参加し、計10名の学生が、令和5年10月11日(水)に周南市立須磨小学校に訪問した。

当日は、児童1名が欠席であったため、2年生の児童1名と学生10名が、2時間の授業交流、給食交流、そして、休み時間の交流を行った。以下学生のリフレクションを基に作成したバスツアーだよりの一部を示す(図3、4)。

山口大学教育学部附属教育実践総合センター

新☆教育課題セミナー

研究視察バスツアー 須磨小に行こう！  
バスツアーだより



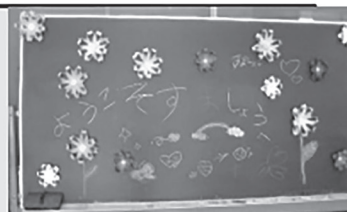
令和5年10月12日



研究視察バスツアー「須磨小に行こう!」、秋晴れの絶好のバスツアー日和の中、参加された10名のみなさん、そして、須磨小の子どもたち(当日は残念ながら1名)、先生方、みんなの笑顔があふれる半日になりました。昨年度から通算3回目の訪問となったこの日は、学生が授業を2時間させていただく機会もいただきました。楽しかった半日をみなさんからいただいた声で、ふり返ってみたいと思います。

### 須磨小から得た学び

○須磨小学校での地域と学校の関係についてあらためて考えることができました。給食中に流れた映像の中には常に地域の方々と共にある須磨小学校の様子がありました。地域と密接にかかわっているからこそその豊かな体験がとても素敵だと感じました。それと共に学校という存在が地域の活性化にもつながると感じました。



開会式から授業を行う中で、現職の先生、市役所の方、学生の皆さんの動きや声掛けがとても勉強になりました。緊張している様子の児童に対して、より簡単にこたえられるような声掛けや意志を尊重した思いやりのある声掛けを行っている様子がとても印象的でした。また授業の中で、お気に入りポイントを発表するときに授業者のAさんが見つけたOさんの工夫点をみんなに伝えている様子がとてもすてきだなと思いました。Bさんの盛り上げる力や明るく授業を展開している姿も見習ってきたいです。今回の須磨小学校や先生方、学生の皆さんから得た気づきや学びを活かしていきたいです。

○児童が少ないという状況だからこそ、先生方や地域の方々、そして他の学校とのつながりがより強いということを感じ、「連携」という輪の中に今回参加することができたことを貴重な経験の1つとしてこれから活かしていきたいです。

○極めて少人数だからこそ、個々人の特性(今この子は何を考えているのだろうか、どんな言葉がけをしたらその子の考えや思いを引き出せるか)をさらに伸ばすことができると実感した。学生のみなさんや先生方の児童に対する接し方が、本当にその児童のことをよく把握されたうえで振る舞いであると感じた。それが、【行きたくなるような学校】【楽しい学校】【安心していられる学校】づくりにつながってくるのではと考えた。

○児童に対する関わり方や少ない人数でも学びのある授業展開を学ぶことができました。1人の児童に対して、関わっている先生方の姿を見て本当に児童のことを考えて行動や声かけをしていました。また、授業では、少ない人数でも楽しく体を動かすことができるゲームや、自然のものを利用してひとつのものを作り上げる工夫が沢山の図工でした。児童に分かるような説明や活動が沢山あって素晴らしかったです。

○児童数が少ないに関係なく、子どもが学べる環境が整っており、人数が少ないからこそできる様々な学び方、地域を活かした活動が行われていることを知った。他の学校との交流が行われていたり、給食は学校全体(児童、教員)で食べていたり、人数の多い学校ではない取り組みをしていた。人数が少ないから、人と関わることがないのではなく、人と関わる機会を様々なところで設けているのだと分かった。また、地域の伝統や特産物などと触れる機会を設け、地域愛も育てていた。

○地域の人の協力の中で学校というものが存在しているということを感じた。最近、学校に対する責任が増えていると言われているが、本来は須磨小のように地域全体で学校を育てることが非常に大切だと改めて感じた。

図3 バスツアーだより①

○地域の大切さについて改めて学びました。須磨小学校でしかできないことがたくさんあり、子どもたちがいろいろな体験を積みながら成長できているんだということを実感しました。地域の人々に支えられ学校があるということを知りました。また、学校という場所が子どもにとっても地域の方々にとっても心の拠り所になっている、居場所となっていると感じました。授業では、初めての場所で1人の児童と学生に授業をしたことが初の経験でもとても勉強になりました。

○須磨小学校にかかわる人々が、須金地域を担っていく人材として、子どもたちを大切にしている様子が伝わる1日でした。2月に訪問したときよりも、児童は心身ともに大きく成長していて驚きました。年の離れた大学生ばかりの中でも、立派に学校を案内してくれました。きっと、地域の人々、学校の先生、他校の児童など、様々な人とかかわる中で、強く、たくましくなったのだらうと思います。このような、自分を成長させてくれる人との出会いがあることが、学校の存在意義なのだと学びました。

○今回の小学校訪問を通して、子どもとのコミュニケーション手段は実態に応じて使い分けが必要であることを学んだ。ピンポン玉をバケツまでより速く運ぶ方法をチームで考える際に、子どもに「どのようにすれば速く運べるかな？」と尋ねると、回答に困っている様子が見られた。そこで、「紙を隣の人とくっつけるか、離すか、どちらがいいかな？」と尋ねたところ、離すという言葉が出てきたときにすぐに首を横に振っていた。選択肢を与えることで、会話が成り立ち、コミュニケーションをとることに繋がったと考える。また、今回は大学生10人に対して子ども1人という状況であったため、緊張もあったと考える。そのため、子どもの実態を捉えるとは、その日の子どもの気分、その時間の様子なども含まれることを改めて実感した。

○学校という場が、数えきれないほど多くの方々を支えられ、物語をつないできた場ということを知ることができました。私が通っていた小学校は人数が多く、学校という1つのコミュニティの中で「地域」を感じる機会は少なかったですが、こうした小規模の学校では、「地域」というコミュニティの中で、「学校」という共通の存在が人々をつなぐ役割を果たしていることを体感することができました。給食の際に流していただいたビデオの中にも、須金地域ならではの活動が多くありましたが、その地域のシンボルとしての学校を介して地域の方が集うということは、地域の存続・発展にとって非常に重要な意味をもつと思います。たとえ児童が2人になったとしても、学校がその地域に残り続ける意味を考えさせられた今回の訪問でした。

図4 バスツアーだより②

学生のリフレクションの記述からは、以下のような学びを得たことを見て取ることができる。

- 地域にとっての学校の存在意義
- 地域連携の具体的な取組
- 地域と学校のつながり
- 個に応じた指導のあり方
- 個を生かす授業づくり
- 個の学びを支える学校環境の重要性
- 地域の発展に寄与することができる児童の育成

さらには、ここに挙げたこと以上の「真正の学び」を得ることができたことが、学生一人一人の生の声に現れていることがわかる。

### 3. 研究視察バスツアーと「教職協働実践Ⅰ」の連動

#### 3-1 授業のねらい

令和5年度も、研究視察バスツアーでの実践を「教職協働実践Ⅰ」の教材として活用し、授業計画を立てることとした。テーマは前年度同様「これからの学校教育のあり方について考えよう！」としたが、前年度の課題を踏まえ、学生がより意欲的かつ主体的に取り組むことができるようサブテーマ「学校は何のためにあるのか」を掲げ、「わくわく授業案をつくろう！」という活動を通してテーマに迫ることとした。

本授業のねらいは、以下の2点である。

- 学校教育や学校を取り巻く環境や現状について関心をもつとともに、これからの学校教育のあり方について教師の視点に立って考えることができる。
- 資料作成の基礎を身に着けるとともに、作成した資料を他者にわかりやすく説明する基礎的技能を養う。

### 3-2 授業計画

「教職協働実践Ⅰ」全15コマのうち、令和5年度は4コマを筆者が担当した。授業計画は以下のとおりである(表1)。

表1 授業計画

回	日時	内容
1	12/14	小規模校を知ろう！ 小規模校の授業を見て考える(動画視聴)
2	12/21	小規模校の授業づくりを体験しよう！：グループ協議 小規模校の教育活動を知る(HP閲覧) グループごとに、「わくわく授業案」を考える
3	1/11	小規模校の授業づくりを体験しよう！：グループ発表 ーグループ3分間で発表する。(質問2分間) 5分間×8グループ
4	1/25	これからの学校教育のあり方「学校は何のためにあるのか」 これからの学校が果たすべき役割についてグループで話し合い共有する

### 3-3 授業の実際

令和5年度も、研究視察バスツアーに参加した3年のゼミ生3名が学習ボランティアとして4回の授業に参加した。

1回目の授業では、バスツアー時に実施した2時間分の乗り入れ授業の動画を視聴し、小規模校の実態や授業づくりの工夫点などを話し合った。音声の録音状態が悪く、聞き取りづらい動画であったが、1年生はみな真剣に動画を視聴し、先輩の授業づくりの工夫点を見つけようと集中して活動した。以下、1年生のリフレクションから抜粋した気づきを示す。

- 先輩たちがやった授業を見て感じたこととして授業の進め方の丁寧さにあります。子どもが授業で発表するとき前に子どもを出してあげて発表しやすいようにしたり、イメージしやすいように実際に先生が2人いることで1人の先生が会話、もう1人がジェスチャーで伝えたりするなどさまざまな工夫をあの短い中で感じ取ることができました。
- 先輩方が授業を行う際に様々なことを工夫されていてすごいと思いました。特に、2年生の子の視線に合わせて話したり、説明する際に2年生の子一人に対して行うのではなく大学生の方にも視線を送ったり声掛けをしたりしながら行っている点がすごいなと思いました。私も実際に授業を行ったりする際に意識していきたいと思いました。
- 子ども理解演習で授業について考える機会があったため、今回の4年生の授業の工夫点がどこかより深く探すことができた。大勢向けの授業しか考えたことがなかったため、学校は集団意識を形成する所だと思っていた。須磨小学校のように2人だけ、1人しかいない学校でどんな授業ができるのか、また、少人数規模の学校になぜ行くのかについて深く考えていきたいと思います。
- 山口県内に児童数2人以下の学校が6校あることにとっても驚いた。実際に須磨小学校で行われた授業動画を見たけれど、2年生の子に分かりやすく説明に身振り手振りが加われていたり、実際のものを使って説明していたりたくさんの工夫が凝らされていた。自分が教員になって児童数が少ないところに配属された時のことを想定して聞くことができた。大変なことが多いと思うけど、少人数だからこそできる活動もあるしそれもいい経験になると思うから一度自分が体験してみたいと思った。

このような気づきを基に、小規模校での授業案をグループで考え、「わくわく授業案発表会」に向け、発表スライドを作成することとした。授業の条件としては、「須磨小らしい授業」「わくわくする授業」の2つ

を示し、グループで授業案を考えた。3年生の学習ボランティア3名が、適宜グループの話し合いに参加しながら、経験を踏まえた助言を行うことで、話し合いを活性化することができた。

以下、学生が考えた授業案の一部を示す(図5)。

**わくわく授業案!**

**「 須磨ッブ ～世界に一つだけの須磨～」**


だいず 班

教科：学活(まとめの1時間を行う)

目的：須磨の魅力地図にし、地域への愛着を高める。

概要：授業時期 2～3月  
須磨小学校の校区の地図を作るために実際に地域を探索し、絶景スポットや地域の要所を写真に収め、そのスポットの説明やポイントなどを書き込む。また、今まで体験した須磨での活動の際に撮った写真も地図の中に取り入れる。マップが完成したら、これまで作製に協力していただいた地域の方を学校にお招きし、マップの発表会を行う。

わくわくポイント：自分だけのオリジナル地図を作ることができる。  
思い出を振り返ることができる。



**わくわく授業案!**

**「図工 やさいハンコアートでランプシェード!」**

ペンギン 班

わくわくポイント

- ① 地域の廃棄野菜を使ってハンコを作る
- ② 事前に作っておいた和紙に自分なりのデザインを加える
- ③ 教室を暗くして点灯する

地域の廃棄野菜を使うことで地域連携を図り、自分が作った和紙とハンコで世界に一つだけのランプシェードをみんなで作り、点灯式と作品説明をする




図5 わくわく授業案

8つの班の授業案はいずれも、2つの条件「須磨らしい授業」「わくわくする授業」を意識して1年生なりに工夫した授業案を提案することができた。

最終の4回目では、授業づくりを通して学んだことを基に、本授業のテーマである「学校は何のためにあるのか」について各自で考え、学修のまとめとした。以下、学生のまとめを抜粋して示す。

- 私が考える、学校は「子どもの人間性をはぐくむ」というものでした。班のメンバーと話し合う中で、「経験を積む」、「自分の才能を見つける」、「協働の大切さを知る」、「子どもの社会性を身に付ける」などの自分にはない意見を知ることができました。また、他の班や先輩の考えられていることなども踏まえて、キーワードが「等しく・一律に・つながり」であるように思いました。学校という場は、すべての子どもにとっての成長の場であると感じました。私が将来、小学校教員となった際には、「学校は何のためにあるのか」という問いを常に持ち続け、教員として子どものためにできることに全力で取り組んでいきたいと思いました。私は、4回の活動を通して教育について、より一層考えを深めることができるようになりました。自分一人では、考えることのできなかつた教師観を他者との話し合いを通して知ることができ、須磨小学校の児童のためにどのような授業をしようかなどたくさんを学ぶことができました。4回すべての活動に、学びを見出すことができたので、非常に充実した授業になったと思います。
- 私が小学生の時は想像がつかない程に、先生方は授業をしっかりと考えてくださっていたのだなと思った。その時の担任の先生に会ってお礼を言いたいなとつくづく思う。私も子どもたちのことを第一に考えることのできる教師になりたい。



- 学校は何のためにあるのかについて考えていく中で、学力をつけるだけではなく、自分の将来の発見とその将来の中で生きていく力を学ぶことができるのだと学び、改めて学校の良さを知った。それと同時に、ただ行かないといけないから通っていた学校にこんなに多くの意味があったのだと知りありがたみを知った。学校の存在の意味と、地域など様々な場所と連携することの大切さをこの授業で学ぶことができた。
- 私は、小研での授業や活動をする毎に自信がなくなってしまう。私が考える浅い考えと違って、みんな深いことや私が思いつかないこと、全く違った視点で考えていて本当にすごいと思うし、まだまだ私に教師になるための力が足りないことを実感します。だけど、だからこそもっと頑張らないといけないとも感じます。この刺激がある環境、これが学校のいいところでもあると今日感じました。山口大学での活動がなければ、私は今の自分の力に満足し、教師になりたい！という気持ちだけで、受けないといけない授業を受け、採用試験に向けて勉強するだけだと思います。でも、小研の中で切磋琢磨し合い、いろんなみんなの意見を取り入れ、自分のものにするすることで、将来より良い教師になれる気がします。また、常に上を目指すこと、研究、勉強し続けることを忘れずに入れると思います。この4回の授業を通して、小研のみんなからさまざまなことを学びました。この事を、今後活かしていきたいと思います。また、これからも学び続けていきたいと思いました。

## 4. 令和5年度の成果と課題

### 4-1 成果

令和4年度の課題であった「持続可能な取組にすること」、「学びの連続性を大切にしたい計画を立てること」を意識して、令和5年度の教育実践を行った。以下、成果として考えられることを示す。

- ゼミ活動を研究視察バスツアーでの活動につなげ、その実践を授業の教材として活用していくといった連続性のある教材開発をすることができた。
- 授業では、学生がより主体的にかかわるテーマやしなやかさを設定したことで、わずか4回の授業ではあったが、学生の学びに向かう意欲が高まるとともに、最後まで意欲を持続し、活動することができた。
- 小規模校にとっても、学生にとっても、win-winな交流活動を2年間継続したことにより、学びの連続性のある教育活動にすることができた。
- 「教職協働実践Ⅰ」終了後、ゼミ活動として「第2弾 須磨小に行こう！」を企画し、2月に須磨小学校の学校行事「餅つき」に参加した。3年のゼミ生3名の他、小学校総合選修1年生3名も参加し、各々が得た学びをさらにつなげ、深めることができた（図6）。
- 「教職協働実践Ⅰ」にゼミ生3名が学習ボランティアとして参加したことで、3年生が1年生にとってよい学習モデルになり、自らの学びを広げ、深めることができた。また、3年生の人材育成にもつなげることができた。

### 4-2 今後の課題と展望

以上の成果を踏まえ、今後の課題と展望について述べる。

令和6年度は、令和5年度の教育活動をさらに広げ、様々なしなやかさを考え、展開しつつある。具体的には、以下のような活動に取り組む予定である。

- 3年生3名、4年生3名の合同ゼミ活動として、「須磨小-山大かけはしプロジェクト！」（学生がネーミング）を計画し、秋に研究視察バスツアーとして須磨小学校で実施予定
- 須磨小学校の学校行事へ自主的に参加予定（5月の運動会に3名のゼミ生が自主的に参加）
- 「教職協働実践Ⅰ」の授業において、秋の実践を教材とした授業を計画
- 「教職協働実践Ⅰ」のフォロー活動として、令和6年度も「第2弾 須磨小学校に行こう！」をゼミ活動として実施し、1年生の希望者も参加予定

令和4年度からスタートした本実践も令和6年度で3年目を迎える。

「学生による」「学生のための」「真正の学び」に発展していくことができるよう今後も教育実践を積み重ねていく予定である。

## 須磨小のみなさんへ一言

- 人員が増えるということは楽になる部分と負担になる部分が出てくる場所に参加させていただきありがとうございます。また機会があればぜひ訪れさせていただきたいです！
- 初めて須磨小学校に行きましたが、温かく迎え入れてくださりとてもうれしかったです。須磨小学校には、いろいろな活動があるので、また参加して、もっと須磨小学校らしさや、良さを知りたいなと思いました。貴重な経験をさせていただきありがとうございます。
- この度は、半日お世話になりました。地元である山口県にある全校児童2人の小規模校に実際に行かせていただき、実際に児童と関わる機会をいただけたことを感謝します。小規模校や複式学級について身近に感じるきっかけとなりました。これからは、様々な学校現場に順応して地域に貢献できる教師になれるよう、知識と経験をより一層蓄えていきたいと思えます。また、2年生の方には、一緒に楽しい半日を過ごしていただき、貴重な経験となりました。ありがとうございました。
- 今回は学校行事であるもちつきに参加させていただきありがとうございました。今回で2度目の須磨小学校の訪問となりましたが、以前よりも多くの地域の方々と出会い、校長先生が仰っていた「須磨小学校は地域の学校」という言葉の意味を強く感じる事ができました。私自身、今回のような昔ながらの方法によるもちつきは初めての体験で難しさもありましたが、先生方、そして地域の方々のご指導もあって貴重な体験となりました。児童との交流も非常に楽しく、短い時間の中ではありましたが、とても充実した時間を過ごすことができました。また機会がありましたら、再度須磨小学校の方にお邪魔させていただき、より多くの活動をできることを願っています。ありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。
- 貴重な餅つき体験に参加させていただきありがとうございました。器械での餅つきしかしたことがなかったのととてもいい経験をする事ができました。また、〇さんとも秋の頃よりたくさん遊んだりお話をしたりすることができてうれしかったです。また、須磨小の行事に参加して、皆さんにお会いできるのを楽しみにしております。一日お世話になりました。ありがとうございました。
- 須磨小の先生方、〇ちゃん、先日は本当にありがとうございました。餅つき大会に参加できたことは、私にとって大変貴重な経験となりました。今回は沢山遊ぶこともできて、とても楽しかったです。また会えることを楽しみにしています。

図6 第2弾 パスツアーだより

## おわりに

学生自身が「学校が魅力的なものであること」、「教員がやりがいのある職であること」を体感できるよう、筆者のこれまでの教職経験を生かした教材開発、教育実践に2年間取り組んできた。次代を担う子どもたちの教育をつかさどる教員という職に、一人でも多くの学生が前向きにチャレンジしていこうとする意欲をもつこと、夢を志に高めていくことができるような学びの場を提供していくことが筆者に課された責務だと考え、教育活動に取り組んでいるところである。

今後も、その責務を自覚しつつ、学生の学びを全力で支え、導いていくことができるよう、そして、道標になることができるよう教育実践に取り組んでいきたい。

## 謝辞

本実践研究に際し、令和5年度周南市立須磨小学校児童2名、同校校長 古元充成 様、同校教職員の皆様、令和5年度山口大学教育学部小学校総合選修4年生4名、3年生3名、1年生3名、教育学選修4年生3名には、多大な支援と学びをいただきましたことに、心から感謝申し上げます。

## 文献

中央教育審議会：「令和の日本型学校教育」を担う 質の高い教師の確保のための環境整備に関する 総合的な方策について（審議のまとめ）、[https://www.mext.go.jp/content/20240524-mxt\\_zaimu-000035904\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20240524-mxt_zaimu-000035904_1.pdf)（2024.6.19 確認）

大丸奈緒美（2023）：「学校の魅力を最大限に引き出す教材開発 教職協働実践Ⅰの授業づくりを通して」山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要，第56号，pp.157-159